YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE
http://yba.hongwanji.or.jp/

Makoto

№142

今号のテーマ

つながり

人との関係は
いいものでありたいけれど、
好きな人、嫌いな人、
色々あるじゃないですか…。
できることなら
視野を大きく広げてみたりして。

実はいつも何かとつながってたりする
今日この頃。
そんなことをテーマにしてみました。

Makoto №142

目次…01

つながり／文章・藤原慈信…02

至宝の言葉・2009 全国真宗青年のつどい富山大会 in 立山／文章・宮﨑寿洋…03

彼国の便り／文章・藤井寿昭…06

象と少数民族／文章と写真・加藤心樹…07

生きろ・九州地区真宗青年の集い福岡大会／文章・加藤心樹…10

教材コレクション・お念珠をケータイする編…12

編集後記…13

写真・日下賢裕、中山真理子

イラスト・中山真理子

つながり。
形あるつながり。形なきつながり。
どちらも大切なつながりだが、重んじたいのは、
形なきつながりに気付かされることが大切なのではないだろうか。
仏教において「つながり」を連想させる言葉は「ご縁」が代表的だろう。
そのほかに「経」と書いて「たていと」の意味を持つ言葉もある。
この「経」の字の由来は、
古代、仏教の経典を書き写した大きな葉を綴じた糸のことを経（スートラ）といい、
また、いのちのつながりを表す。
各寺院でも勤められる永代経法要の「経」の字も、
永い代にわたって阿弥陀さまのお法（みのり）や、
親鸞聖人のみ教えをお聞かせいただくというつながりのことだ。
先日、あるテレビ番組でこんなことを目にした。
公園ではしゃぐ子どもの声が騒がしいと
近隣住民が地方自治体の対策不足として裁判を起こし、勝訴したという。
私の地元でも、お祭りの太鼓の音がうるさいという苦情が増えた。
別に不快と感じることが悪いとは思わない。
騒音は騒音にしか聞こえないのだが、同じ音にもかかわらず、
そうには聞こえない人には多様な「つながり」があるからだろう。
８月に開催された全国真宗青年のつどい富山大会のテーマは、
「ひとりじゃない」だった。
大会で感じ取られたのは、自分はひとりではなかった安心の面が強かったが、
改めてそのテーマを考えてみると、ひとりではない責任もあると気付かされた。
社会における人間関係が形骸化するなかで、
その安心と責任を兼ね備えた「つながり」を見いだせることは、
先人方が私たちへと確かにお伝えくださった智慧のひとつではないだろうか。

文章・藤原慈信

文章・宮﨑寿洋

写真とイラスト・中山真理子

二〇〇九 全国真宗青年のつどい 富山大会in立山

至宝の言葉

約三時間電車にゆられ、今ようやく富山駅のホームに降り立った。そこには澄み切った青空が広がっていて、心地好い風が優しく肌に触れる。僕にとって富山は初めて訪れた場所であり、よって僕の好奇心が掻き立てられる。また、それと同時に気を張っている自分にも気づかされるのだった。

今日、八月八日は「全国真宗青年のつどい」。テーマは「ひとりじゃない」。そのテーマは人を勇気づける言葉でありながら、一人で会場に乗り込み、人付き合いの苦手な僕にとってはどうしても重くのしかかってくる。そんな風に何事も悪いように考えてしまう自分を戒めながら、

僕は開会式をむかえた。席に座り、周りを見渡すと知っている方が何人かいた。たしかに「ひとりじゃない」ようだ。そして、開会式が終わったらウォークラリーが予定されていた。そのウォークラリーは班で行動するようで、僕の班は自分を含め三人で、三人とも初対面同士だった。早くもぎこちない関係が予想されつつ立山でのウォークラリーが始まった。

ウォークラリーは立山の広大な自然を満喫できるコースだった。しかし、僕は心を解放できず、息苦しさを感じていた。

「この場を何とかせねば」

僕はこの班の仲をどう繕うかで頭がいっぱいで、立山の景色を楽しむ余裕はなかった。そして勇気を振り絞り、ついに質問してみることにした。

「趣味は何ですか?」

なんてありきたりな質問なんだ。

このような感じでウォークラリーが始まったが、終わってみればすっかり三人は意気投合していた。どうも僕は考え過

ぎだったようだ。この場を上手く切り盛りしようとするあまり、自分をかえって窮屈な空間へと追い込んでいたようだ。もっと周りを信じて、三人で協力してその場の雰囲気を作りあげたらよかったのだ。なぜなら、「ひとりじゃない」んだから。そして、この「ひとりじゃない」という言葉は人を勇気づけるだけではない。自己の独善的なあり方を省みさせる言葉でもある。つまり、自分を善とし、他を自分の独占物のように、または悪として尊重しない傲慢なあり方を省みさせる効果を発揮する。この世界は一人のものではない。多くの人々が共有するスペースのはず。

「ひとりじゃない」

この言葉は自分自身や他人を蔑むあり方を見直させ、共に睦み合える社会を目指す至宝の言葉。そんなことを考えさせられた「全国真宗青年のつどい」であった。

彼國の便り（七）

BUDDHIST 108 國 仏教青年

パソコンやワープロで文章を作成する時に、思いもしない漢字に変換されたという経験をした方は比較的多いと思います。希望する漢字に変換されずイライラしたり、あるいは思いもしない漢字に驚き、そして感動したという方もいるかもしれませんね。

私の先輩に不思議な方がいます。この人は気持ちを込めて「漢字変換」をしています。例えば「新人」を「進人」に。「省エネ」を「笑エネ」に。「人材」を「人財」に。「競争」を「協走」に。「市民運動」を「志民運動」に。「起爆剤」を「輝爆財」に、というように変換して使います。私はこの変換された文字を見ながら、話し言葉以上にその意味を伝えることができる方法のひとつだと思いました。この先輩が言うには「最初は遊び半分で面白がってしていたが、今は心を込めて、そして本気で『漢字変換』をしています。」とのことでした。

皆さんも、心を込めて本気で「漢字変換」にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。そうすると、伝えたいことや願いがはっきりしてくることがあるかもしれません。

『増補親鸞聖人眞蹟集成』（全十巻・法蔵館発行）には聖人の御眞筆、つまり聖人自筆の著書内容がそのまま紹介されています。その中には「母」という文字が何箇所も出てきます。

そしてよく見てみますと「母」という文字の中の部分を「子」に置き換えて使っている創作漢字を見つけることができます。

例えて子が母を、そして母が子を思う無償の愛のように、阿弥陀如来に願われて続けている私なのだということを、聖人はこの文字の中に込められたのではないかと思います。

平成二十三年、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤めになります。あらためて聖人のお伝えくださった報恩感謝のお念仏とともに、「いのちのつながり」を喜び大切にし、ともに歩みを進めてゆける仲間が集えればと思っています。

文・藤井寿昭（仏教青年連盟 指導講師）

象と少数民族

タイ第二の都市チェンマイの中心部からメーリム方面へ車で小一時間。雨期特有の湿気と灼熱の日差し。自然の匂い、埃、空気、川の色、そして象と少数民族のある風景。そこには、日本では知り得ない現実がありました。

人間という問題

このエレファントキャンプは、私がずっと訪れたかった場所だった。自然というよりもジャングルに近い雰囲気。なんとなく砂遊びをする無邪気な童心に帰ったような気がする。しばらく園内を歩いていると、小さく可愛らしい象が近寄って来た。愛嬌のある表情で鼻を絡めてくるのだが、そのまま飲み込まれるんじゃないかという位の力であった。その後、象使い（カレン族）によるショーを見学して、象乗り体験をする予定であったが、かなり時間があったので、タイ人のガイドと休憩所で雑談していた時の事だった。そのガイドがカレン族を卑下する話を得意げに始めた。このとき私は、なぜこのガイドはそこまでカレン族を見下すのか分からなかった。

その後、エレファントキャンプを出て少数民族の集まる村を訪ねた時、やっと理由

が分かったのである。どうやらこの村の少数民族の人たちは、ミャンマー（ビルマ）の国境周辺から逃れてきた人たちのようであった。これは、タイ側にすれば厄介者。実際、この少数民族の人たちはタイに住んではいても、市民権がある訳ではなく、タイ語も話せないので街にも出ない。あくまで私見的ではあるが、住居を提供する代わりに観光客相手に商売…そんなところが見え隠れするのである。現に、タイに亡命してきた人々が難民として受け入れられずにいるという報道もよく目にする。なんとも悲しい現実だ。表向きには、どこの国にでもある観光客向けの施設にしか感じられないのだが…。

エレファントキャンプの象は、そんな事実を知ってか知らずか、常にカレン族の人々と暮らしてきたのだろう。人々が全うに生きるということの難しさは、受け止め方が違っても、結局どの国でも同じ事のようだ。癒しを求めて旅をすれど、常に突き当たる問題。それは人間だ。

第36回 九州地区真宗青年の集い 福岡大会

「生きろ」

文章・加藤心樹

実は、本大会のテーマが「つながり」であった。現にこの原稿を書きながら、とても内容の濃い大会だったと思い返しながらキーボードを見つめている。恐らくというか、誰しもが色んな意味でショッキングだったのは、パネルディスカッションではなかっただろうか。一九八三年に起きた半田保険金殺人事件のご遺族の方を交えて、死刑というものについて議論を壇上で交わした。

話は多少ずれるのだが、初日プログラム終了後の晩に部屋で懇親会に興じていた時の事である。一緒に雑談していた一人の男性が、今日のパネルディスカッションはちょっと変だったと言い出した。彼の言う変とは次のようなことである。本来パネルディスカッションは、議論という意味で意見の異なるパネリストがいてもいいのに、全員が死刑制度反対の立場であったことに違和感を感じたという。

つまり死刑反対ありき同士の議論は、死刑反対ということに対して会場の参加者に同意を求めているか、納得させているかのどちらかなので、それは議論として意味をなさないということだった。

確かに仏教青年という団体においての大会であれば、死刑ということに反対の立場を取るべきなのだろうが、個人として、また一般からの大会参加者として、あるいは遺族の感情から考えるという一般論を持つ者としてこの会場にいたならば、とても奇妙なものに思えたのかもしれない。だが、私はこの彼の言葉と今大会においてのパネルディスカッションは、私たちに大きな問題提起をしてくれたと思う。

もちろん議論についての答えを出せと言っている訳ではない。死刑制度の国に生まれたからこそ、考えていかなければいけないものでもあるはず。もしそこに答えがあるとするならば、議論終盤に壇上のパネリストが、仏教だからという名目で納得すべきでないという意の言葉を述べたところではないだろうか。残念ながら正確な言葉を覚えていないのが申し訳ないが、私はそれが「信念」という言葉を意するものであったと私個人は受け止めたい。誤解のないように付け加えれば「私」という人間は、現にいま生きて思考を働かせているか、ということを突きつけられているような気がするのである。ナゼ？という発想すらなければ、議論は第三者のものになりかねない。そこに「私」はないのだろうから。

生きろ。

大会二日目に観た映画の中で繰り返し発せられた言葉。生きているという実感がなければ、それを自覚することはない。それを思えば今回の大会は、私を私だとつなげてくれた二日間だったように思える。

最後になるが、このすばらしい大会に参加させていただいたこと、福岡仏青のスタッフに感謝したい。ありがとう。そして、おつかれさまでした。

KYO-ZAI COLLECTION

YBA ITEMS

お念珠をケータイする編

ストラップ（連盟価格 500 円 / 一般価格 550 円）

お念珠をモチーフとしたストラップ。青年層のみならず、あらゆる年代にご好評いただいております。

携帯電話 etc につけていただき、仏教に親しんでいただけるよう、またみ教えを身近に感じていただければと思います。その他にも仏青には、たくさんの教材があります。

○**腕輪念珠**　（連盟価格 120 円 / 一般価格 150 円）
○**トートバック**　（連盟・一般共通価格　300 円）
○**クリアファイル**（連盟・一般共通価格　100 円）
○ **YBA タオル**　（連盟・一般共通価格　100 円）
○**ナップサック**　（連盟・一般共通価格　100 円）

日常の生活に、仏教青年会活動に、また研修会や大会にお使いください。お問い合わせは、裏表紙に記載の連絡先まで。

加藤心樹

チェンマイの某ファストフード店で見つけたド○ルドです。タイの挨拶の合掌（ワイ）のポーズをしています。さてさて、今号は〆切押しまくっての発行でした。日下クンに「テーマに沿った写真をちょうだい」とオファーをかけたところ、表紙の写真を送ってきました。なんじゃコリャ？と思ったら、グリニッジ天文台にある東西を分けるグリニッジ子午線だそうで。まさに地球レベルでつながる場所で究極の「たていと」でしょ。ハイセンス。

藤原慈信

最近、学校の校門でよく目にする「関係者以外の立ち入りを禁ず」。私の幼い頃は「校長の許可なく立ち入りを禁ず」と書いてあったように思う。そもそも地域に密接すべき学校にとって、無関係な人など存在しない。社会の変化に伴って、言葉の扱いも軽薄化しているように思い…ません？　Ｗｅａｒｅシンセキ！

宮﨑寿洋

もともと僕は多趣味な人なんですが、今度は音楽にも手を伸ばそうとしています。だけど音楽はあまり好きではないんです。だけどすごく興味があるんです。ただ好きなものって自然に好きになるのであって、好きになろうとして好きになるのは可能なのか。それとも欺瞞なのかと考えたらもどかしさを感じます。ただひとつ断言できることは、もしもこれが音楽ではなく、女性だった場合は完全にフラれてます。

日下賢裕

お釈迦さまが出家されたのが二十九歳。親鸞聖人が比叡山を降りられたのも二十九歳。自分にとっても二十九歳の一年は大きな転機となりました。そして、とうとう三十路に突入。三十にして立つことができるように精進せねば。

中山真理子

この夏は学生最後ということで、いろんなところへ旅行に行きました。富山や三重、広島等々。美味しいものを食べて、すてきな出会いをして、とても有意義な夏休みでした。学生もあと数ヶ月。同じ学生最後の皆さん、最後の最後までレッツフリーダムしましょう♪

本多聡

今回のテーマは「つなぐ」というテーマでした。繋（つな）ぐ…一、ひとつづきになる。つづく。つらなる。二、持ちこたえさせる。たもつ。三、物を綱やひもで結んで離れないようにする。ひとりじゃない。みんながそれぞれにいろんなつながりがあるのだと改めて実感しました。

Makata
№142
浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関紙 2009(平成21)年12月15日発行 印刷：創文堂印刷株式会社
編集／発行：仏教青年連盟 広報委員会 〒600-8501京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派 宗務所内 TEL：075-371-5181(代)

OnenjuStrap

お念珠型ストラップ
好評発売中！

各 550円(一般価格) ／ 500円(連盟価格)※

お問い合せ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟
TEL：075-371-5181(代)　yba@hongwanji.or.jp

※連盟価格とは、仏教青年連盟に加盟されている方の価格です。